

菌田 晃弘 論文審査の要旨

論文題目 高齢者における医薬品の有効性及び安全性の向上を企図した薬学的介入

審査内容 菌田晃弘氏の学位論文(以下、本論文と略記)の審査結果を以下に要約する。本論文では高齢者における医薬品の有効性・安全性の向上を目的とした薬学的介入によって腎排泄性の低分子ヘパリンのエノキサパリンの有効性には総タンパク濃度が重要な因子になり、安全性に関してはヘモグロビン値・手術時間が関与していることを明らかにした。

また大腸がん手術による炎症所見としての CRP 上昇と炎症に伴う低アルブミン血症に関しての検討では CRP が高いと術後 3 日後の血清アルブミンが低下することを明らかにした。これにより食事の早期開始、あるいはアミノ酸+糖質輸液などの栄養管理により低栄養から、さらなる炎症所見増大を防ぐことができることが期待される。

腎機能に基づいた処方監査をする方法は多様であるが、eGFR だけでなく身長、体重、推算 CCr も処方箋に記載し、腎排泄性薬物で重要なものには【腎】をつけることによって疑義紹介すべきかどうかを確認し、さらに【腎機能に応じた投与量の確認】(投与量確認シート)によって医師に伝え、処方変更を励行するシステムによって薬物適正使用に貢献した。その成果として 26.4%あった不適切処方が 0.7%に著減できた。この検討では対象医薬品数を増やせば、医原性副作用を根絶できるシステムに発展できる可能性が示唆された。いずれの知見も実地医療において重要であり、多角的に高齢者薬物療法の適正使用に貢献しており、薬剤師の業務をこなしながら臨床データを集め整理するという大変な作業を行った熱意も感じとられた。

以上の理由から、菌田晃弘氏の学位論文は博士論文として十分な内容を含んでいると判断した。

審査委員 臨床薬理学分野 教授 平田 純生



審査委員 薬剤学分野 准教授 渡邊 博志



審査委員 薬物治療学分野 准教授 猿渡 淳二



審査委員 臨床薬物動態分野 准教授 城野 博史

